

当院代謝内科を受診された患者さんへ

当院代謝内科では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等について個人情報の保護には十分に配慮致しますが、研究目的の利用を希望しない場合は、下記までお問い合わせ下さい。

ナトリウム・グルコース共輸送体 2(SGLT2)阻害薬使用下の下部内視鏡検査時の血中ケトン上昇に関する検討

現在お使いいただいている糖尿病の薬剤であるナトリウム・グルコース共輸送体2(SGLT2)阻害薬(製品名:スーグラ、テベルサ、ルセフィ、カナグル、フォシーガ、シヤティアンズ、カナリア、スージャヌ、トラティアンズ;以下、本剤と略します)内服中の方は下部内視鏡検査の際に血液中にケトン体が増加しやすいという報告があります。

ケトン体過剰が心臓病へ繋がるという報告もありますので安心して下部内視鏡検査をお受けいただき検査後帰宅いただくために、一滴の血液で10秒で測定可能であるケトン体をきちんと測定することが望ましいと我々は考えています。

豪州では一昨年頃から本剤を下部内視鏡検査の3日前から内服休止するよう勧めています。日本を含めそれ以外の地域ではまだ具体的な対応は判断されていません。内視鏡検査自体の影響ではなくその前処置の問題でのケトン体上昇と考えられていますので、必要と判断されて計画された内視鏡検査は予定通り施行いただき、検査直後に血中ケトン測定して一定値を超えている場合は、血液検査追加のうえでケトアシドーシスという病気が起こる頻度を調査します。本剤使用下にケトアシドーシスの発症は1/1000とされていますが、下部内視鏡検査後の頻度については報告が少ないこともありまだ不明です。

ご質問やご意見をお持ちの方は下記までお寄せください。

秋田赤十字病院 第一代謝内科 部長 氏名 後藤 尚

ご連絡先 〒010-1495 秋田市上北手猿田字苗代沢222-1
秋田赤十字病院 代謝内科
電話:018-829-5000(fax: 5215)

用語解説

ナトリウム・グルコース共輸送体2(SGLT2)阻害薬 ～ 糖を尿へ排泄させることにより血糖を下げる目的で処方されている糖尿病の治療薬(製品名:スーグラ、テベルサ、ルセフィ、カナグル、フォシーガ、シヤティアンズ、カナリア、スージャヌ、トラティアンズ)でケトンの増加、さらに一部の例ではケトアシドーシス発症がその副作用にあげられています。

ケトアシドーシス ～ ケトンという物質の影響で血液が酸性になる病気。心臓などの病気へ繋がる副作用があり手術前後にはより起こりやすいと考えられています。